

アメリカ留学

大橋祐輝

このアメリカ留学では忘れることのできない日々の連続であった。この留学の参加を決意したのは2年の春の頃。両親は常日頃から「留学に行くべきだ、いろんなことを見て学んで来い」と口癖のように言っていたのが理由の1つ。それに加えて、単純に海外へ行ってみたかったのが大きな理由だろう。アメリカに向けての準備がとても大変で、ビザを取りに東京へ行ったり、必要と思われる物を買揃えたりと慌ただしかった。また、現地の英語が聞き取れるのか、話せるのか、友達をつくれるのか、不安でしかなかった。しかし、アメリカで生活して一番の問題が時差であることを知ったのが留学初日のことだ。日本との時差が約14時間もあり、昼夜逆転生活を送らなければならなかったからである。夜いつもの時間に就寝出来ず、朝起きても欠伸ばばかり。慣れるまでに1週間もかかった。寮生活ではルームシェアでメキシコ出身の **Diego** と一緒に過ごした。初対面ではどう接していいかわからず、英語も拙かったことから悩みの種であった。しばらく共に過ごしていくと徐々に会話が弾むようになり、思い返すと本当にいい思い出となっていた。

ESL、留学中のプログラムではたくさんの人と出会い、かけがえのない時間を共にした。韓国や中国、サウジアラビアやブラジルなどと文化も言語も異なる人との会話はとても貴重であった。互いの文化と照らし合わせることで新たな発見や驚きが発見され、それぞれの国に興味を持つことができた。**ESL** の生徒だけではなく、在学中の生徒とも仲良くすることができ嬉しかった。きっかけはほんのささやかなことであり、一緒に遊ぶところかファストフード店まで連れて行ってくれ、この留学生活を支えてくれた彼らには感謝しきれない。**ESL** の先生も優しく接し教えてくれ、何か問題が発生した時には柔軟な対応でいつも助けてくれた。勉強だけではなくアメリカの文化や習慣、実際に生活しなければわかりえないことまでも教えてくれて本当にためになった。放課後はしばしば **New Man Catholic Center** に足を運んだ。名の通りカトリックの人々が集まる場所であり、毎週水曜日に開催される **Free Diner** に参加した。夕食を食べながらいろいろな人と会話する機会であり、そこでカトリックについて学ぶことができた。カトリックに関してはあまり興味が無かったが、話を聞くとなかなか面白いことを知ることができ、貴重な経験であった。

以上のことから、このアメリカ留学はとても有意義な時間を過ごすことができたのではないだろうか。多くの人と出会い、いくつかの文化を理解し、そしてたくさんの初めてを知ることができた。近い将来、再び訪れることができたなら幸いである。